2023 FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP
Rd,1-Rd,2 OTG Motorsports REPORT

5月3日 - 4日 (Rd.1-2)
天候：晴 コース：富士スピードウェイ

フォーミュラレースの入門カテゴリーとして多くの参加者を集めているのが、2015年にスタートした「FIA F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP（FIA F4選手権）」になる。

シーズンスタートから国内最高峰のレースシリーズとして知られるSUPER GTのサポートレースとして開催されていて、今季も7大会14戦が同レースと併催される。

FIA F4選手権はカートやジュニアフォーミュラと呼ばれるカテゴリーからのステップアップを想定していて、ここで頭角を現すことによってSUPER GTなどの国内トップカテゴリーへの道が切り開かれるのだ。このように元々、上位カテゴリーへの橋渡し役となるのがFIA F4選手権の特徴だが、主催するGTアソシエイションが設けている独自のスカラシップ制度もあり、それが「FIA-F4 JAPANESE CHALLENGE DRIVER」になる。OTG MOTORSPORTSとダンロップが共同で支援しているプロジェクトとなり、選抜されたドライバーはOTG MOTORSPORTSから1年間のシーズンを戦う。

コロナ禍もあり2021年と2022年は募集していなかったが、今季は3年ぶりにオーディションが実施され、2005年生まれの野澤勇翔が5代目のドライバーとして選出された。野澤選手はまだ普通自動車免許が取得できない年齢だが、全日本カートでの実績が認められJAFから限定ライセンスが付与されている。

初のフォーミュラレースとなる野澤選手は、開幕戦の舞台となった富士スピードウェイでの走行経験も少なく、まずは参戦経験の持っているライバル勢に対してどのような戦い方をしていくかがポイントとなった。

FIA F4選手権の開幕戦は、5月1日（月）に30分×3枠のダンロップトレーニング、2日（火）に30分×3枠のOTGトレーニング、そして本戦は3日（水）に予選と第1戦の決勝レース、4日（木）に第2戦の決勝レースが行われるスケジュールとなっていた。

2日間のトレーニングで野澤選手は、合計79周を走行し、ベストタイムは1分47秒408となっていて周回を重ねるごとにタイムを更新していった。

2023 FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP　Rd,1-Rd,2 OTG Motorsports REPORT

●予選5月3日（土）

第1戦B組13位（総合26位）　第2戦B組12位（総合24位）

FIA-F4選手権は今季も多くのエントリーを集めたため、46台のマシンが2組に分けられて予選が実施された。

野澤選手はB組に振り分けられて初の予選に挑んだ。コースオープンとともに走行を始めると計測3周目に1分47秒865をマークするが、トップは1分46秒台で走行していて上位へ入るにはさらなるタイムアップが必要だった。野澤選手は周回を重ねるごとにベストタイムを更新していき、計測8周目には結果的にセカンドベストタイムとなった1分46秒844、11周目にベストタイムの1分46秒653をマーク。

この結果によりベストタイムで競われた第1戦の予選はB組13位で総合26位、第2戦はB組12位で総合24位となった。

●第1戦　5月3日（土）

スタート26位　フィニッシュ19位

予選終了から約5時間のインターバルを経て開催された第1戦の決勝レースは、14周で競われた。コンディションは予選と同様のドライで、強い日差しが照り付けたことで路面温度は30℃を超えていた。

26番グリッドからスタートした野澤選手は無事にスタンディングスタートを決めて、1コーナーを通過。1周目からレースは混乱し、コース上にマシンが止ったためセーフティカーが導入される。野澤選手は24番手までポジションを上げていて、リスタートを待った。4周目にレースは再開し5周目には1ポジションアップし、翌周にもポジションを上げる。レースが終盤を迎える11周目には自己ベストタイムの1分47秒425をマークし、ファイナルラップは20番手に浮上しチェッカーを受けた。正式結果では先行していたマシンにペナルティが与えられたため19位でFIA F4選手権のデビュー戦を終えた。

●第2戦　5月4日(日)

スタート24位　フィニッシュ20位

FIA F4選手権の第2戦決勝レースは、予選と第1戦から一夜明けた5月4日(木)の8時15分にスタートを切った。

24番手からスタートした野澤選手はポジションをキープしてオープニングラップを終えるが、第1戦と同様に1周目からセーフティカーが導入される。4周終了までセーフティカーが先導し5周目にリスタートすると、野澤選手は21番手までポジションを上げた。参戦経験が豊富なライバル勢とバトルを繰り広げながら、8周目には1分47秒112のベストタイムをマーク。その後もテールトゥノーズのバトルを行ない、14周目に21番手でチェッカーを受けた。正式結果では先行したマシンが降格したために20位となっている。

FIA F4選手権のデビュー戦となった野澤選手は、走行するたびにタイムアップを果たし決勝レースでも好バトルを展開した。ただ、フォーミュラレースの経験なかったため、次戦以降に向けて多くの課題が残った。レーシングカートでは国内トップレベルの結果を残しているだけにフォーミュラレースでも素早く順応していくことが期待される。

野澤勇翔 選手

昨年まで全日本カートの最高峰クラスに参戦していて今季のF4チャレンジドライバーとしてチャンスをいただけました。これまでフォーミュラレースの経験がなく、シーズンオフにテストはさせてもらったのですがライバル勢には遅れをとってしまいました。公式練習ではトップとの差が2秒ほどあり、トライビングで多くの課題を感じました。予選では位置取りやスリップストリームの使い方も良く自己ベストを更新でき、トップとのタイム差も縮められました。ただポジションは下位になってしまったので、少しでもタイムを上げる努力をしないといけません。決勝レースはスタート直後の混戦やタレていくタイヤへの対応など、ここでも多くの課題がありました。初戦をトラブルやクラッシュがなく終えられたことは良かったですが、攻め切れていないところや課題も多いので、時間を無駄にせずシーズンを戦っていきたいです。